

2) 生駒市森林整備方針のあり方について

生駒市森林整備方針のあり方についての懇話会

2. 生駒市森林整備方針のあり方について

令和 5 年 2 月 16 日

株式会社 森林コンサルタント  SHINREN Consultant

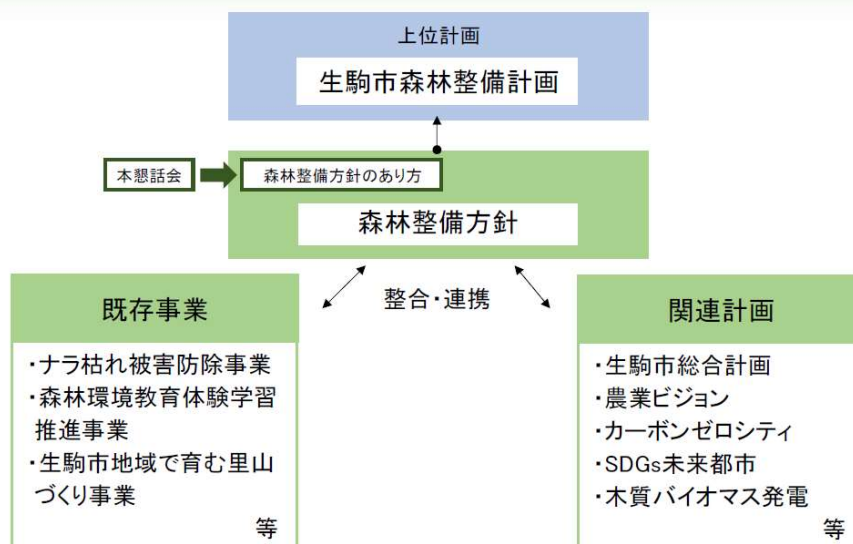
2. 生駒市森林整備方針のあり方について

- ① 本懇話会の位置付け
- ② 新たな森林管理システム(森林経営管理制度)
- ③ 森林環境譲与税額とこれまでの活用
- ④ 他地域の取り組み事例
- ⑤ まとめ

 SHINREN Consultant

2. 生駒市森林整備方針のあり方について

① 本懇話会の位置付け



2. 生駒市森林整備方針のあり方について

② 新たな森林管理システム(森林経営管理制度)

平成31年度4月より施行された「新たな森林管理システム(森林経営管理制度)」の運用に向け、経営管理権集積計画作成の前提となる正確な森林現況を把握し、林相区分図を含む基礎資料の整理を行い、森林整備が必要な林分について施業の優先順位や路網開設などの検討、森林所有者への意向調査実施、森林経営管理制度の運用等に活用するための基盤を構築する。



2. 生駒市森林整備方針のあり方について

③ 森林環境譲与税額とこれまでの活用

- 1) 森林環境税・森林環境譲与税とは？
- 2) これまでの森林環境譲与税の活用事例
- 3) 令和3年度の活用事例

2. 生駒市森林整備方針のあり方について

1) 森林環境税・森林環境譲与税とは？

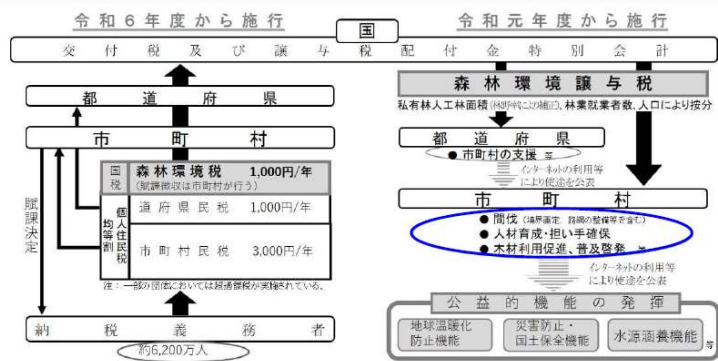
「森林環境税」は、令和6(2024)年度から、個人住民税均等割の枠組みを用いて、国税として1人年額1,000円を市町村が賦課徴収するもの。また、「森林環境譲与税」は、市町村による森林整備の財源として、令和元(2019)年度から、市町村と都道府県に対して、私有林人工林面積、林業就業者数及び人口による客観的な基準で按分して譲与されている。



資料：林野庁HP「森林環境税及び森林環境譲与税の仕組み」

2. 生駒市森林整備方針のあり方について

1) 森林環境税・森林環境譲与税とは？



資料: 林野庁HP「森林環境税及び森林環境譲与税の仕組み」

- 間伐（境界確定、路網の整備等を含む）・・・「森林の整備に関する施策」
 - 人材育成・担い手確保
 - 木材利用促進、普及啓発等
- ・・・・・・「森林の整備の促進に関する施策」



6

2. 生駒市森林整備方針のあり方について

2) これまでの森林環境譲与税の活用事例

(単位: 千円)

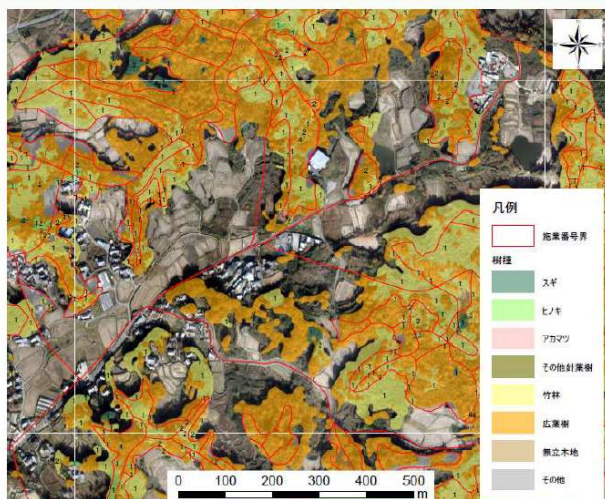
事業名	令和元年度	令和2年度	令和3年度
森林整備事業に伴う調査業務	2,068	3,190	7,150
ナラ枯れ防除補助事業	281	630	340
ナラ枯れ防除事業	1,342	0	0
森林環境教育体験学習推進補助事業	125	125	0
生駒市地域で育む里山づくり事業	0	0	1,851
森林環境整備促進基金積立	1,046	6,388	970
合計	4,862	10,334	10,311



7

2. 生駒市森林整備方針のあり方について

3) 令和3年度の活用事例



調査対象地の直近の航空写真(平成29年撮影)の画像データ(オーバーラップ率60%以上の単写真)を基に、専用の立体視ソフトウェアを用い、最小単位は0.01ha、樹高は10m超を目安にオペレータの手作業により林相の違いによる区分線を作成。

写真画像を立体視して立木を目視することで、樹種ごとの区分のみならず、林分毎の樹高の違いや樹冠の混み具合(疎密)など林相の違いによって区画を分けることが可能。

2. 生駒市森林整備方針のあり方について

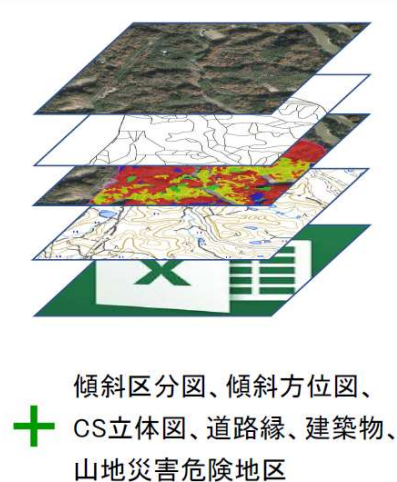
3) 令和3年度の活用事例

■ 森林簿と林相判読実施結果の樹種別面積比較(地域森林計画対象民有林)

樹種	①森林簿記載面積 (ha)	②調査結果面積 (ha)	③面積差 ②-①(ha)	④差異率 ②/①×100(%)
スギ	49.42	51.67	2.25	105%
ヒノキ	93.79	91.37	-2.42	97%
アカマツ	800.98	1.91	-799.07	0%
広葉樹	722.56	1,317.08	594.52	182%
竹林	122.31	198.57	76.26	162%
その他	60.22	188.56	128.34	313%
合計	1,849.28	1,849.28	0.00	100%

2. 生駒市森林整備方針のあり方について

3) 令和3年度の活用事例



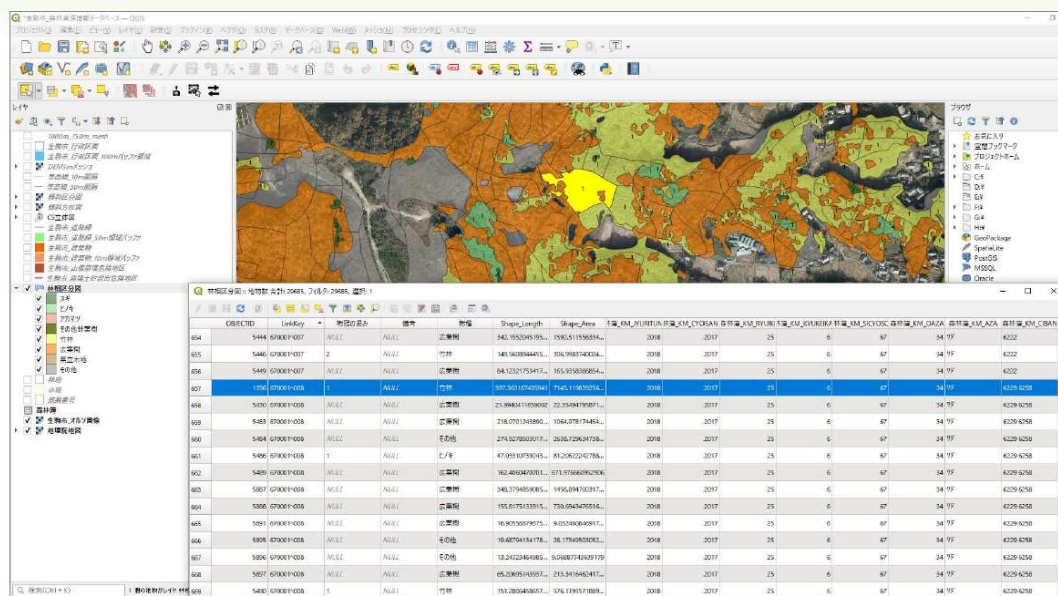
オーバーレイ（重ね合わせ）

林相判読・森林現況調査により得られた森林資源情報に加え、国土交通省等で公開されているオープンデータを活用し、森林GIS(QGIS)を用いて森林資源情報データベースを作成。

これらデータベースを構築し、森林GIS等のシステムを活用することで、森林整備計画や路網計画、目標林型別ゾーニング、作業システム別ゾーニング等、目的に応じた計画立案やゾーニング作業が効率的に進めることが可能となる。

2. 生駒市森林整備方針のあり方について

3) 令和3年度の活用事例



2. 生駒市森林整備方針のあり方について

3) 令和3年度の活用事例

奈良県が目指すゾーニング区分を基本としつつ、生駒市独自の課題として存在する竹林の整備に関する整備の優先度を検討するため、竹林を別の区分けとし、さらに整備を優先すべき竹林とそれ以外の竹林とに区分し試行的なゾーニングを実施。

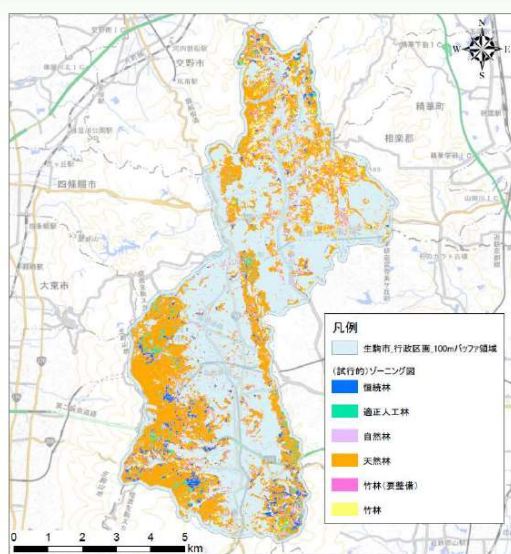
なお、標高については生駒市内では1,000mを超える箇所はないため、基準からは除外。

■ 試行的ゾーニング

分類	区分	現況林	傾斜	道路からの距離	建築物からの距離
奈良県が目指す区分	恒続林	人工林	40度未満	50m未満	—
	適正人工林	人工林	40度未満	500m未満	—
	自然林	人工林	40度以上	500m以上	—
	天然林	天然林	—	—	—
竹林	竹林(要整備)	竹林	—	10m以下	10m以下
	竹林	竹林	—	10m超	10m超

2. 生駒市森林整備方針のあり方について

3) 令和3年度の活用事例



区分	面積(ha)
恒続林	89.03
適正人工林	78.22
自然林	1.85
天然林	1,662.27
整備対象竹林	90.97
竹林	280.12
合計	2,202.46

2. 生駒市森林整備方針のあり方について

④ 他地域の取り組み事例 - 三田市

人口：約11万人

人工林率：9%



資料：三田市里山の保全と活用に関する行動計画

里山の持つ生物多様性や景観、生活文化などの多面性が、そこで暮らす人々の生活の営みの中で形成されてきたことを理解し、現代を生きる私たちが無理なくできる、今の時代にあった暮らしと里山との関係を築き、里山からもたらされる豊かな自然の恵みは市民共有の資源として、市民、ボランティア団体、NPO、企業、専門機関、行政など多様な主体により将来にわたり享受できるよう、里山と共生するまちづくりに取り組んでいる。



14

2. 生駒市森林整備方針のあり方について

④ 他地域の取り組み事例 - 三田市

STEP 1 「知る」 → STEP 2 「守る」 → STEP 3 「活かす」

リーディングプロジェクト

- 資源循環型竹林整備事業
- 木の駅プロジェクト
- 古民家等を活用した飲食・宿泊施設の環境整備
- グリーンツーリズム



15

2. 生駒市森林整備方針のあり方について

④ 他地域の取り組み事例 -三田市

●里山の資源循環型竹林整備事業

木竹材などの自然の恵みが持続的に循環して維持・形成されてきた里山の再生を目指すため、資源循環型里山整備のモデル事業として、令和元年度から里山にある竹林や里山林の整備とその整備で伐採した木竹の循環利用に取り組む方を支援する補助事業を実施している。

里山からの資源を持続的に循環利用する多くの活動が取り組まれている。



土壌改良材となる竹炭作り



肥料となる竹パウダー作り



16

2. 生駒市森林整備方針のあり方について

④ 他地域の取り組み事例 -三田市

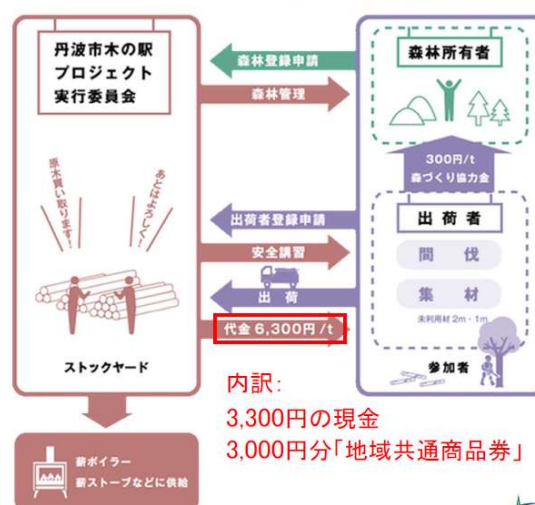
●木の駅プロジェクト

木の駅プロジェクトは市民参加型の森林整備として、木を伐採・搬出し、プロジェクト運営者が買い取り、薪やストーブ、バイオマスボイラーの燃料等として販売する循環型システムを構築する仕組み。

市内で発生する伐採木の有効利用として、伐採、加工、流通、販売、消費の循環型システムの構築を検討。

三田市は先行して取り組んでいる丹波市を参考。

資料:丹波市木の駅プロジェクト



17

2. 生駒市森林整備方針のあり方について

⑤ まとめ

■ 森林整備方針のあり方について考える

➡ 森林整備方針の策定

■ 担い手の確保・育成をどう進めるか